

越谷郷土史資料

第六十三回

史跡めぐり資料

私市城跡
騎西町

越谷郷土研究会

越谷市録の会
田熊仁

才六十三回史跡めぐり案内

越谷市郷土研究会

一日時

六月二十三日(日)

午前八時三十分集合

九時〇分出発

一場所

(コース) マイクロバス

越谷福祉社会館前—岩槻イシノリ十三

加須市内—騎西町根古屋

1 私市域跡

根古屋

2 金剛院

3 前玉神社

4 大英寺

騎西町

5 玉敷神社

6 善徳井

7 実乘院

8 大福寺

田ヶ谷

9 成就院

道地

10 竜興寺

上崎

11 石宮墓地

中種足

12 谷部房次宅

、

帰路

後台五時頃南散り予定

越谷福祉社会館前

私市城跡

私市城 北埜玉郡騎西町根古屋

騎西城 - 根古屋城、山の根城とも云、平城で
ある。

新編武藏風土記稿によると、本丸、二の丸

などがあり、その周囲を水堀（堀）が取囲ん

でいるが、今は土塁の跡を残すのみで堀は水

田と成つて居る。古図によると本丸の周囲は

九十間（二一七メートル）余り、二の丸は百二十間（二一七メートル）とあり大手は

東南に向ふ。附近には城耕地、代官所、足輕

所の名がある事を伝へてゐる。

此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。此の地は武藏七党の办私市党居住の地といふ。

②

東方向り也し

①南埼玉郡並埼玉郡は古くは私市部の領せし

地なれば騎西領せしと埼玉郡と譯せしが平将

門亂以後平良文の息忠頼武藏守に任じ孫忠常

武藏押領使と在り、常將、常長と武藏押領使

が統子行長(十子)一大藏十郎号龍大夫 又常

將の弟胤宗は武藏四郎を稱し 子元宗は武藏

四郎太郎 孫基永は野东六郎 又行長の兄常

繼(天孫)の子近永は野东庄司と稱す 又行長の子達

は常業(大藏)二郎 常老(徳江)四郎 行親(

鬼窪小四郎) 季平(相間)小六郎) と全員駿西

の地を領すにより 前九年の役の時(常長)出陣

す) 常長は右源頼義の領すに豊島郡武藏国

に進出し始め常長 常業父子の時代には後三

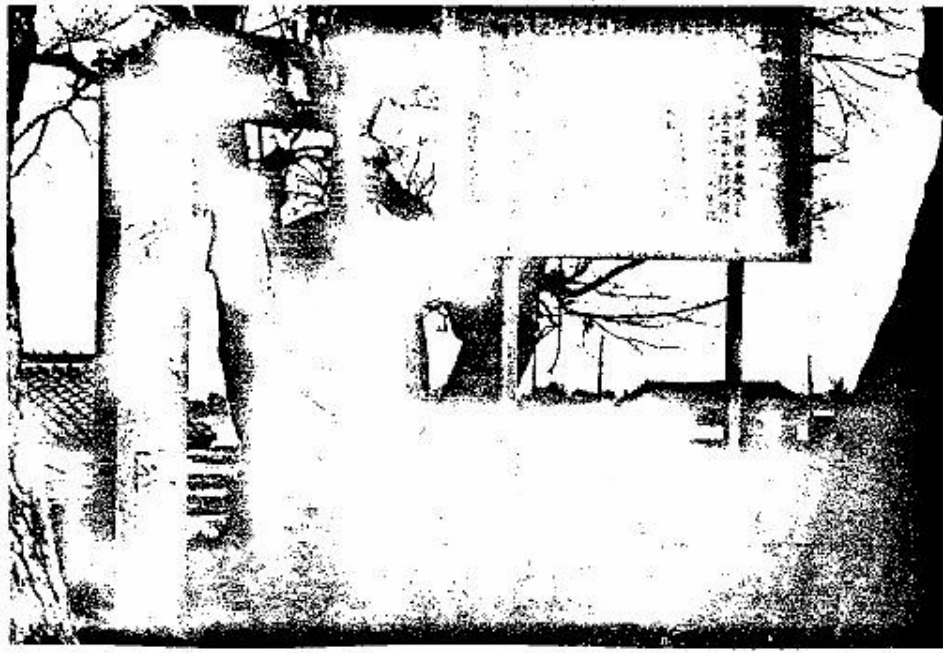
年の役に出席し 常業の足弟共が埜玉の地に

進出し左事が解る。(私市氏此の頃後退せり)

私市城物見台跡並に立札



FUJICOLOR 600 74



FUJICOLOR 600 74

前玉神社 北埼玉郡騎西町根古屋

私市城の城中に有つたものと思はれる。埼玉

玉古墳群の中に有る前玉神社（浅間社）と因

係有り私市部の主神と言はれる大己貴命を祭

神とする。根古屋村此の村の鎮守なり。昔

古騎西町場久伊豆神社の有りし古竈跡にして

此処より正能村へ移り。夫より今の騎西町場

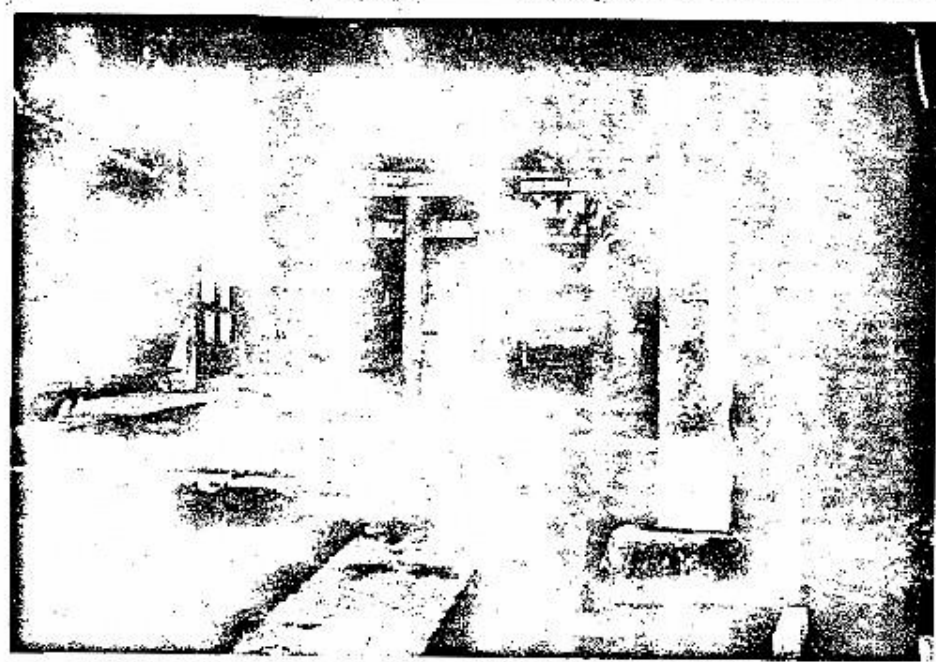
へ移り。此の跡なれば古竈跡と唱へ小社を

置けり。神社は所野隠岐の持。延喜式に埼玉

神社と有は。当社の事なるべし。又傳へに

当社は宣化天皇八代の後胤從五位上木工頭
丹治比貞成の靈社在り。貞成の子峯成私市党

FUJICOLOR 100 24



の始祖也。此人の弟貞峯と
云は丹治黨の始祖也。此の
二党の子孫分れ武州の地に
多し。其の子孫の居所多く
此の神社祭れりと。されば
奉成の父貞成を祭れりと云
事所謂有るに似たり。

金剛院

北埼玉郡騎西町根古屋

騎西町地方最大の板碑有り他多数

新義真言宗 山城国醍醐報恩院の末山なり

神光山大日寺と号せり。慶長年中寺領二十五

石の御朱印を賜はれり。寺存は私市城築造の

頃 日出字村より引移せりと。されど寺存に

所蔵せる古巻蓋の裏に 文禄五年住僧弘源の

時引移せしと有るは、城築造後の事存らん。

弘源は騎西町場寶刹院の開山にして 慶長年

中寂せり。(慶長拾年七月七日寂)

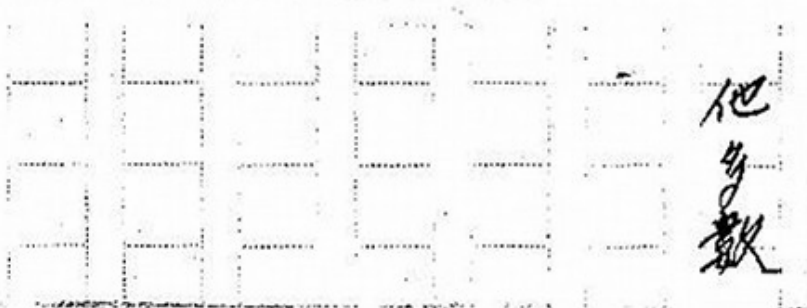


◎ 応長元年二月

◎ □ □ □ □ □ □ □ □

FUJICOLOR 610 N

90mm 365cm



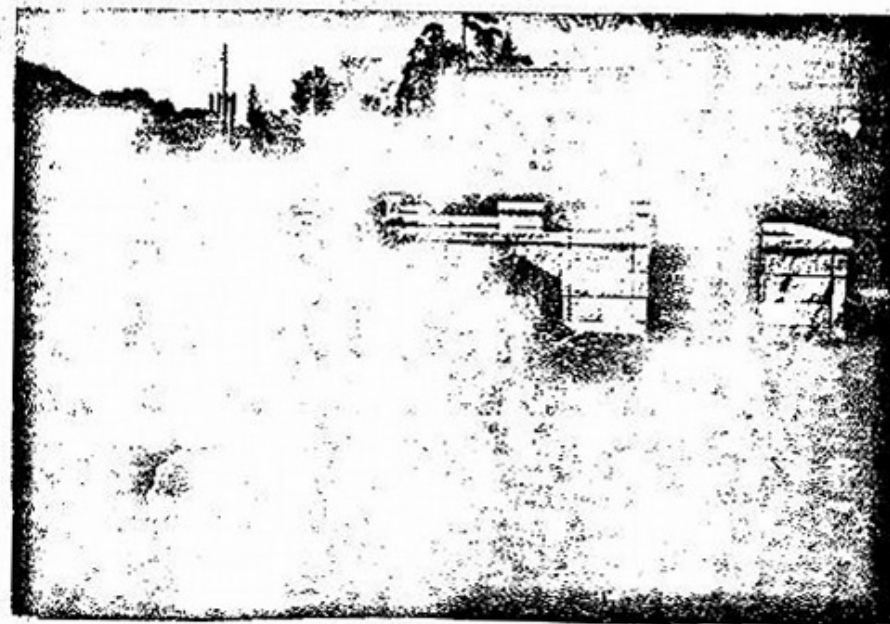
他多數

上欠

完

南無阿弥陀佛

三尊来迎図



FUJICOLOR 610 N

驛西町最大

大英寺 北埼玉郡騎西町騎西

淨土宗 加倉村淨國寺の末 崇龜山松応院

と号す。 当寺は天正十八年松平周防并根古屋

城一私市域を賜ふ 居城也し頃 寺領三十

石を寄進して建立し 團蓮社彌譽玄道をもつ

南山とせり。 玄道移転の後 本山才二世無月

は、兼て上り周防并保と歸依せし僧存れば、

当寺へ請侍して二世となし、 再々二十石を増

加す。 云々。



FUJICOLOR 35 74

① 延曆二年 154cm 改刻 嘉曆二年	② 嘉元元年 161cm 莊嚴	③ 弘安九年二月 169cm 釈迦と弥勒 陀	④ 弘安元年十一月 78cm 阿弥陀三尊	⑤ 文永十二年 142cm 真言と偈	⑥ 正嘉元年四月十二 118cm 三尊来迎図
----------------------------------	--------------------------	------------------------------------	-------------------------------	-----------------------------	---------------------------------

玉敷神社

北埼玉郡驛西町

主祭神大己貴命

当神社は

延喜式(九二七)

神明帳に

の古宮で明治維新まで埼玉郡驛西領四十

八ヶ村の総鎮守であつた。

創立は成務天皇六年或は文武天皇大皇三年と

も傳へられて居る。

古くから庶民に

明神様

の名で崇敬されてゐるが

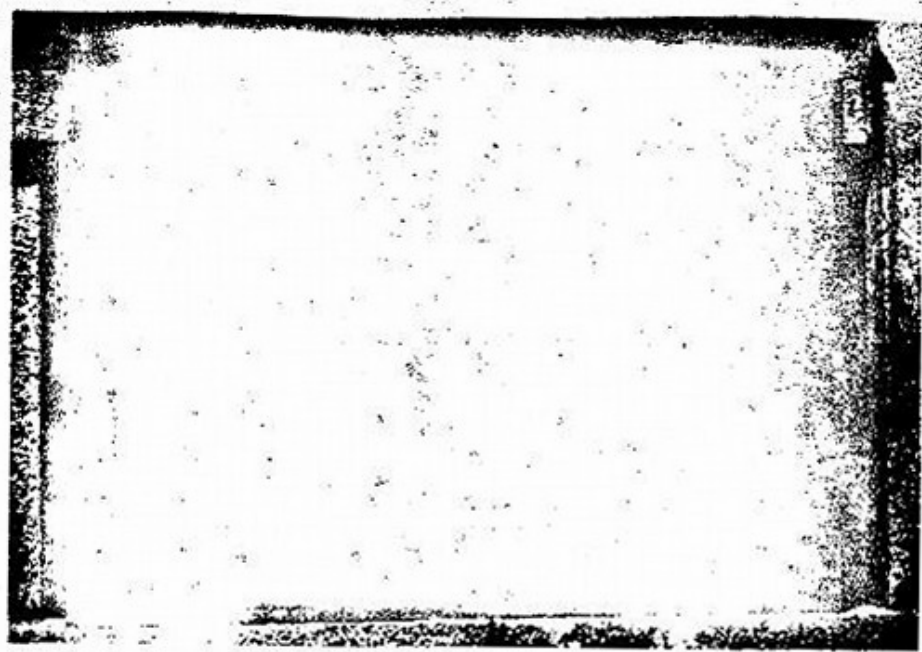
私市城主からも社

殿の造営社領の寄進なども受けてゐる。又

お獅子様と稱して神室である獅子を命靈と

して迎へ招福除災のはらひの行事を行ふ地区

は二百余ヶ所に及んでいゝ。



FILICOLOR 688 X

現存の本殿は文化十三年(一八八〇)拝殿は明治三十一年(一八九八)の建造である

昭和四十六年一月

騎西町教育委員会

善應寺

北條玉郡駿西町駿西

駿西町最古の青石平都染有り

禪宗曹洞派

上會下村靈祥寺の末寺

愛宕山

と号す

開山蘭室秀大

寛永三年三月廿六日

本尊十一面観音を安ず

鐘樓口貞享五年鑄造

の鐘を掛る



阿弥院 偈

246m

完騎西町最古

仁治三年十二月
(一三四三)

寶乘院

北埼玉郡騷西町騷西

新義真言宗

大龍山と号す

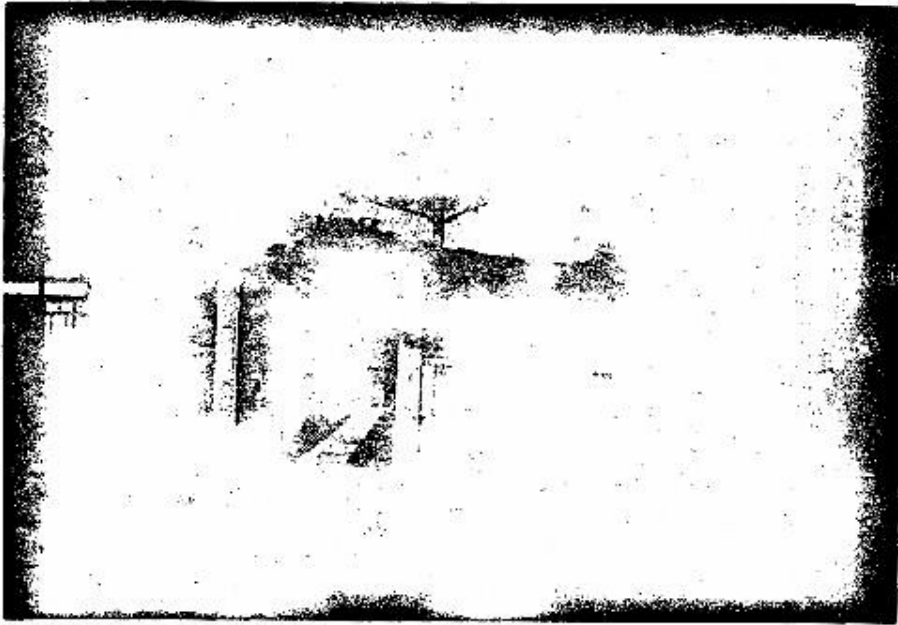
根古屋村金剛

院の末弁

南山弘源僧都

慶長十年七月七日

示寂 本尊十一面観音



◎ 文保三(三)年二月時正
 ◎ □^{まめ} □ □ □ □

FUJICOLOR
 KODAK SAFETY FILM



74cm 132cm

他多数有り

□ 時正とは春彼岸中日ノ事也
 □ 年己未八月

大福寺

北埼玉郡騷西町田ヶ谷内郷

多賀谷館跡也

多賀谷代は建久三九〇一一四三嘉吉迄の

二百五十年間在任 下妻城に移る

内田ヶ谷村は海と郷小根庄に属す 古は西

庄田ヶ谷郷と唱へ多賀谷代任せしと云 多賀

谷代を辨ずるに 武藏国埼玉郡多賀谷郷の任

人 左卫内尉家政は 金子十郎家忠が二男左

り 曆仁元年頼經の隨兵たり 其子弥五郎重

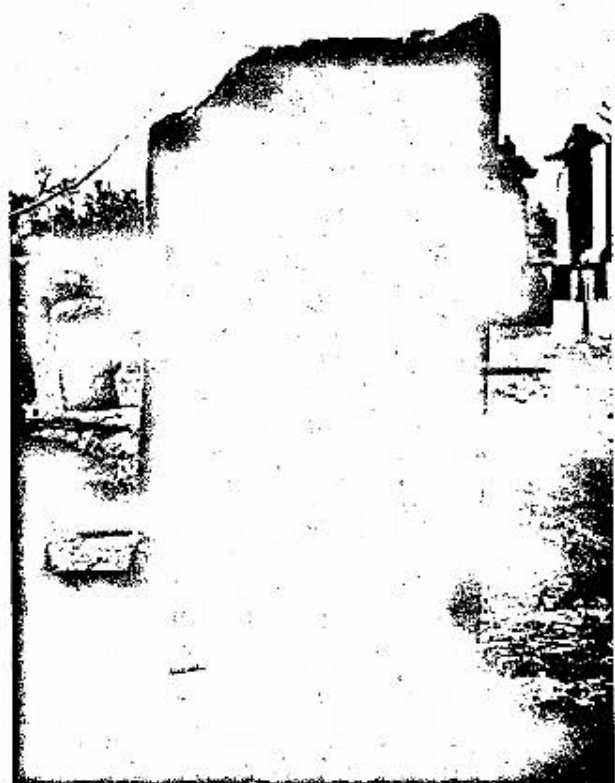
茂 頼嗣に仕へ 建長三年弓始めを勤め 其

子五郎景茂宗尊親王に仕へ 康元元年弓始め

12 景茂其の巻に撰れ、其子彦太郎家経、其子
五郎政忠其子。彦太郎家茂相統す。其子弥五
郎政朝、下総国結城左卫门尉満廣の子、原五
郎光義を尊と奉し、家を継しむ。光義古郷志
れ難く、結城へ歸りしかば、嫡子彦四郎代家
を始め、家臣随ひ来ると載左れば、此頃まで
当所に任せしなるべし。又
村内大福寺の記に、多賀巻付下書へ移し時、
鎗跡へ建立と云事見え左れど、同書に據け
光義当所を去し後、彦四郎代家一旦常陸へ趣

き後寛正年中取立下妻城に住せしとあれば、
寺傳ニ、より下妻へ移りしと云は誤りなり。
尚その寺の條下に辨せし家茂、
重茂、重政等がこ
とは東鑑に載する所も多賀谷記と符合せり
又當国七党系図野赤党に、道智法花坊、多賀
谷二郎光基、多賀谷弥三郎某、多賀谷三郎重
基、多賀谷四郎久基など云人見中。道地村
と云了け、隣村なれば是等の人も当地に住
せし事知るべし。

新義真言宗、正能村龍花院末、熊野山弥陀院と号



① 弘安十一年

116cm

上下欠
主尊特殊

② 文永七年

123cm

略完

③ 文永四年

130cm

上下欠
入道交名



成就院

北埼玉郡騎西町道地

道地村は太田庄に属す。江戸より行程十五

里。東鑑に道智次郎。同三郎太郎承久三年六

月平治川合戦に於て討死と載せたるは。当村

に住せし人にや。又遠藤氏の系図にも武藏国

道智二郎と云ふ名見ゆ。當国七党系図に道智

法花坊とあり。此の法花坊は当所に住せしもの

なればし。

新義真言宗智山派 正能村龍花院末寺 稲

荷山萬福寺と号す。崩基は村民増田次左衛門

が母にて延宝六年十月廿七死す 中興開山は

深齋寂年古傳へす。

◎寛元^{一〇二〇}二年二月 110cm 上下欠 主尊月輪下圍を

◎弘長^{一三三六}三年六月 150cm 略完 光照偏照

◎□安□□年 113cm 完 弘安十一年亦

竜興院

足利持代 子春王丸 安王丸の墓後に建立

禪宗臨濟派相摸国鎌倉圓覺寺末 大光山と号

延宝六年住僧大溪が書したものに 大同元年

天祐草創の地なりとあれど、上りたる世の事

なれば、いかん共云ひがたし、中兴開山曇芳

は、永享八年九月十七日寂せり。此僧は鎌倉

管領足利持代の伯父なりと云伝ふ。

◎文永八年二月

奉造立青石卒都婆と刻字

県指定史跡



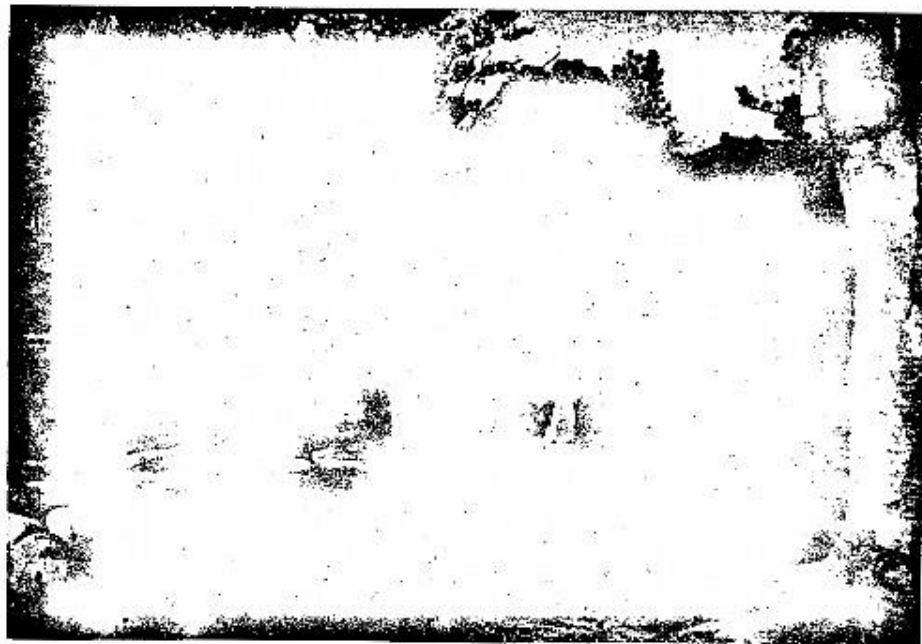
FUJICOLOR CO. JAPAN

足利拵代

春王丸

安王丸

三靈基



FUJICOLOR CO. JAPAN

石宮墓地 北埼玉郡騎西町中種足

谷部房次氏宅内に現在集めて祈葺せり

中種足村

上種足村は山根庄海土郷と唱ふ。上中下と

分りし年代詳ならず。中種足村龍昌寺寛永十

九年の御朱印に種足村の内と有りて。上中

下の事なし。然るに正保の図にははや今り

如く三村に載りたり。往古は種垂と書し

と有りと言ふ。

鎌倉時代は武藏七党の一つ野東党系図に多名

代を稱ふものあり。

此所に住せし者なすべし。

◎文永^{一三三七}十年十二月

61cm 下欠

◎文永^{一三七四}十一年七月

82cm 完

蓮花一部刻

◎□治^{一三七八}三年五月廿

41cm 上欠

建治^{一三七八}花瓶

◎弘安五年十月

81cm 完

蓮花台一部線刻

◎弘安十年三月

84cm 完

◎正応三年九月

111cm 略完

◎永仁五年八月

77cm 完

◎正安三年三月

122cm 完

他多数の内室町弘治^{一三五七}三年が最新在り。